

地域の魅力 ✨ 再発見！

羽場・丸山 地域の「今」を知り「未来」を考える

皆さんには自分の生まれ育った地域の人口、年齢構成、そしてこの先の人口増減を知っていますか。

今年度、羽場・丸山地区では地区の基本構想を見直し、「これからどのようにしていきたいかをみんなで意見を出し合つて新たな構想をつくる」そうです。そこで、私たちも今、自分自身が考える・

感じる地区的魅力やもっと魅力的な地区にするためには何が必要か、

どうぞ。そこで、私たちも今、自分自身が考える・



丸山地区では、都会では絶対にあり得ない街中でのあいさつ（知らない人でも）など、地域の人たちの「あたたかさ」という魅力が話題となりました。

また、飯田で暮りし続けたいけれど離れてしまう理由に、希望職種がなかつたり、能力を活かせる場が少

ないことがあると伝えたところ、地域の皆さんも同じ思いだということがわかりました。

今回の座談会を通して、中学時代

ぶりに地域のこと話をした気がします。

地元を離れている人たちが多くいますが、離れてみたからこそ気づいた魅力をシェアすることができたり、地元について地区の皆さんと一緒に話せた時間がとても楽しかったです。

また、何となく感じていた地元の魅力に理由付けができる嬉しくなりました。私たちの声を聞いてくれた地域の皆さんに感謝し、これから先、

羽場地区では、市街地やアップルコードなど、色々なところに出て行きやすい立地で、「住みやすい」という魅力が話題となりました。

橋北・橋南・東野 りんご並木今昔物語

りんご並木は、飯田の象徴として、また東中学校の伝統として、地域の皆さん協力を得ながら大切に受け継がれてきました。20歳の節目に、りんご並木の現在を改めて知りたいと思い、実際にりんご並木の収穫作業に参加し、地域の方から話を聴きました。

東野まちづくり会議の大場会長からは、並木の木々が弱ってしまい、やむを得ず切られたものもあると伺いました。美しい景色が続く裏側では、長い年月の中で守り続けるための苦労や努力が積み重なっていることを知り、私たちはこの並木をこれまで以上に大切に感じるようになりました。

また、東野公民館の佐々木館長からは、りんご並木だけでなく、その先に続く桜並木も含めて盛り上げようとする新しい動きを教えてくれました。浜井場小の児童や幼稚園児による行灯づくりなど、若い世代の参加によって、まちの意識がりんご並木から桜並木へ広がりつつあります。「車の通る道ではなく、人が歩いて楽しめる道に」という願いが歩いて楽しめる道に」という願いには、飯田をさらに魅力的な場所にしたい思いがこめられていました。

夏の草取りや摘果、除草などは決して楽ではありません。それでも、生徒たちが誇りをもって作業に関わるよう工夫を続け、小中の連携を強めながら未来へつなげていこうとする姿勢が印象的でした。

りんご並木は幅広い年代から愛され、関わる人それぞれの想いがあることを知りました。特に、人が歩いて楽しめる道という言葉が心に残り、並木沿いには飯田のりんごを使ったカフェなどもあるので、もっと利用する人が増えるといいなと思いました。

久しくぶりの収穫作業は少し大変でしたが、東中のジャージに手ぬぐい姿が懐かしく感じ、その分心に残る時間になりました。

並木作業を通じて、りんご並木は地域や小学生などの交流の場でもあることを再認識しました。これからも、地域の魅力と愛され続ける場所として長く愛され続ける場所であるよう見守つて行きました。

現並木委員長の麦島さんの話では、少子化で生徒数が減り作業負担が大きくなっている現状を知りました。



座光寺 麻績の里の思い出

座光寺は、歴史と自然、そして温かい人々の営みが息づく「麻績の里」として知られています。そのシンボルが、樹齢約400年を誇る舞台桜です。この一本桜に隣接する舞台校舎（旧座光寺麻績小学校校舎）は、木造建築で歴史があり、また黒光の床は魅力の一つです。

私が子供の頃の思い出にも、麻績の里の中心にある麻績神社の広場があります。小学生の私は、この広場で学校帰りに日が暮れるまで友達と毎日のように草野球をして過ごしました。とっても楽しく今でも思い出しだした。とつても楽しく今でも思い出しだした。とつても楽しく今でも思い出しだした。

また、神社の春祭りでは獅子舞が町を練り歩き、天狗に追いかかれたりと子供心をくすぐられるイベントもあり、伝統文化としても受け継がれています。

こうした里の風景と文化が守られているのは、熱心な活動を続ける人々の存在があるのです。今回、地域の魅力再発



振興委員会主催の桜まつり



振興委員会会長とオンラインでお話

上郷 小学校の最大の魅力にっこにこ

私たちは、母校の上郷小学校で地域の魅力について取材を行いました。私たちが卒業して8年、時代は大きく変化してきました。そこで、この8年で変わったことについて、現在の校舎を見学し、教頭先生にお話を聞きしました。私たちが6年間を過ごした上郷小学校の変化、昔から変わらない上郷小学校の魅力を紹介します。

大きく変わった変化の一つは、学習の一IT化です。現在は、1人1つのタブレットが支給され、授業でも積極的に使われています。タブレットを利用した授業では、意見をタブレットに入力して意見の交換を行ったり、学習のまとめを行ったりして学びを深めており、IT機器を用いた授業を通して、自分の意見をなかなか発表できない子どもでも積極的に授業に参加することができている

そうです。一IT化に伴い、ネットリテラシーや情報モラルについて小学生のうちから身に着けることができ、現代の情報社会に対応していくきっかけになることが感じました。

さらに、放課後児童クラブについても大きな変化が見られました。今まで地域の3か所に分かれていた児童館を統合し、上郷小学校の1階部分に児童クラブを設置することで、多くの子どもが放課後の時間を過ごすことが出来るようになっていました。児童クラブは現在120人弱の子どもが利用しているそうです。児童クラブが統合されたことで、子ども同士の関わりが増え、地域での深い関係づくりにつながるとともに、小学校内で過ごせることで保護者も安心して預けることができるとう考えました。

お話を聞く中で、麻績の里振興委員会は、桜を囲う杭の交換をするなど、舞台桜の繊細な手入れを行い、美しい景観を維持していることが分かりました。また、春の桜祭りの運営、夏の夏祭りの提灯付け、そして大晦日の幻想的な竹宵の点灯といった、里の四季を彩る祭事の全てに尽力されていました。

舞台桜、舞台校舎、そして麻績神社の広場で遊んだ思い出は、座光寺の人々の思い出に深く根付いています。と思うし、麻績の里振興委員会をはじめとした座光寺の皆さんのが活動によって、これからも多くの人々の思い出になると思いました。



地域の魅力 ✨ **再発見！**



今回の地域学習では、五平餅作りの体験と、小学校の中を巡る活動を行いました。どちらも私にとって思い出に残る内容であり、地域の文化や歴史に触れる貴重な時間になりました。五平餅作りは小学生の頃にも体験したことがありましたが、あいだためて参加してみると、当時とは違った感づきや学びがあったと感じました。

のご飯を竹移りました。最後にタレを塗つて焼くと、香ばしい匂いが広がり、地域の味を自分の手で作る楽しさをあらためて実感することができた

五平餅作りの後は、通っていた小学校の中を巡りました。卒業してから時間が経ちましたが、校舎や教室を見ると当時の記憶が鮮明によみがえってきました。廊下を歩くと、友達と走り回ったことや、授業で使っていた道具、行事で練習した歌やダンスのことなど、懐かしい思い出が次々と浮かんできました。特に印象に残つたのは、体育館での遊びです。自分達が使いたいボールを飛び箱の中に隠して怒られたり、スーパーボールなど小学生の頃にやつたことを思い出し懐かしい気持ちになりました。

今回の地域学習を通して、五平餅という地域の味と、小学校で過ごした当時の記憶の両方を振り返ることができました。地域の文化や歴史は、特別な場所にあるのではなく、日常の中に自然と存在しているのだと感じました。これからも地域への関心を持ち続け、今回学んだことを大切にしていきたいと思います。

上久堅には「小野子人参」・「小野子のごぼう」という地域を代表する特産品があります。小野子地区の気候とミネラル成分を多く含む赤土で育つこれらは色が濃くて甘みが強く香り高い味が特徴です。また一般的なものより長いのも大きな特徴です。私たちは今回、この小野子人参と小野子のごぼうを使って人参クツキー・人参カツブケーキ・ごぼうチップスを作り、地区の文化祭で販売しました。

文化祭の前に小野子人参の現状を知るために小野子人参クラブの方々にお話を伺いました。年々育てる人が減ってきてること、適切な気温の時期にしか芽を出さないこと、さらに今年は猛暑の影響で例年よりも芽を出した数が少ないなどを教えていただきました。そのような状況でも芽を出して大きく成長している畑を見て、小野子人参クラブの方々が手間をかけて大切に育てていることが伝わってきました。私たちも一度、小学生の時に学校の畑に赤土を運んで小野子人参の栽培に挑戦しましたが、上手く育てられず

下久堅
地域の味、あの日の記憶

上久堅
特産品で地域とつながる



上久堅には「小野子人参」・「小野子のごぼう」という地域を代表する特産品があります。小野子地区の気候とミネラル成分を多く含む赤土で育つこれらは色が濃くて甘みが強く香り高い味が特徴です。また一般的なものより長いのも大きな特徴です。私たちは今回、この小野子人参と小野子のごぼうを使って人参クツキー・人参カツブケーキ・ごぼうチップスを作り、地区の文化祭で販売しました。

文化祭の前に小野子人参の現状を知るために小野子人参クラブの方々にお話を伺いました。年々育てる人が減ってきてること、適切な気温の時期にしか芽を出さないこと、さらに今年は猛暑の影響で例年よりも芽を出した数が少ないなどを教えていただきました。そのような状況でも芽を出して大きく成長している畑を見て、小野子人参クラブの方々が手間をかけて大切に育てていることが伝わってきました。私たちも一度、小学生の時に学校の畑に赤土を運んで小野子人参の栽培に挑戦しましたが、上手く育てられず

松尾 第1回ステアクライミング大会 in 鳩ヶ嶺八幡宮

松尾地区では、二十歳の集い実行委員として集まつた男3人で11月8日に鳩ヶ嶺八幡宮で初めて開催されたステアクライミング大会に参加してきました。

はじめに、ステアクライミングとは超高層ビルやタワーなどの階段を頂上まで駆け上がるスピードを競う競技です。会場面の階段は、1段の高さが約22cmで垂直方向に約17m、全77段の石段を1段飛ばしをせずに駆け上がるというルールのむど、開催されました。

子どもから大人まで計18人が出場し、その中には女性や77歳の高齢の方も一緒にステアクライミングをしました。正直、大変そうだから軽くやればいいやと思つていましたが、小学生、中学生に負けていられないとライバル心が出てしまい、自分の出せる本気で取り組みました。上り始めは「行けるな」と思いましたが、段を重ねるごとに足が重くなり、運動不足を感じました。石段の周りでは、地域の方たちが大

きな声で声援を送つてくれており、無事11段を上りきることができました。実行委員長の林靖人さん、通称『やつとくん』は「継続して開催すること」で各地の大会とツアーように参加してもらい、神社を多くの人に知つてもらいたい」と話してくれました。記念すべき、第1回目のステアライミングに参加することができますが、本当に良かったです。

『やつとくん』は、二十歳の集いの急な参加も快く受け入れてくれ、自分たちの事を「俺の子どものようなもんだ」と親しみを持つて迎え入れてくれました。改めて、地域の方たちとの繋がりや温かみを感じることができ、嬉しく感じました。私たちが無事成人の日を迎えることができたのは、家族はもちろん地域の方の支えがあつたからだと思います。



名古熊地区は、伊賀良の後藤伊作は獅子舞があり、10地区のうち8地区に存在します。飯田の地区内で一番獅子舞が多く盛んなことや、幼少期に獅子舞を習つていたこともあり、今回改めて獅子舞について調べることにしました。

まず初めに飯田市美術博物館にお邪魔して、学芸員の近藤さんと中山さんから獅子舞について話をお伺いしました。下伊那には沢山の獅子舞がありますが、地域によって特徴や文化が様々です。そこで実際に演舞を見てみたいと思い、獅子舞フェスティバルに参加しました。

獅子舞フェスティバルでは、8地区すべての獅子舞の演舞を拝見し、関わる方からご自身の地区的獅子舞の特徴や魅力についてお伺いしました。下山地区の特徴は獅子頭の角が一一本で「一角獅子」と呼ばれており、これはとても珍しいそうです。

一色地区は、5種類の舞い方がある、宇天王といじどもの傘踊りがあるのが特徴です。

東鼎地区は新しくできた獅子舞ですが、首筋に鯨幕を思わせる白いたての傘踊りが入っているのが特徴です。

名古熊地区は、伊賀良の後藤伊作は獅子舞があり、10地区のうち8地区はお囃子教室から笛などを地域の人から学び、大きくなるにつれて獅子舞に携わるそつです。上茶屋地区は黒獅子で高森町の大島山瑠璃寺の舞じを受け継ぐ獅子舞です。宇天王と猿が居て獅子舞と演舞をするのが特徴です。

上山地区は昭和8年に発足し、現在は5代目の獅子頭を使用しています。道中舞8曲と本舞1曲があり、本舞では、最後に家の玄関に舞い込むのが特徴です。



中平地区は、青い幌とおかめ・きつねが特徴です。「青」は、復活の色として尊重され、獅子は動く神座として神を宿し、五穀豊穣、家内安全を祈念して舞われています。

切石地区は演舞、舞曲は厄払いの本舞1曲と道中舞の2曲があり、赤鬼と青鬼が名脇役として共に練り歩くのも特徴です。

各地域の獅子舞には異なる特徴がありますが、どこも共通して自分の地域の伝統を愛して守つている姿が見られました。今回の学びを通して、私たちも鼎の素晴らしい伝統を守つていきたいと思いました。

鼎 鼎の伝統芸能「獅子舞」の魅力を探る